



記入日	2019 年 1 月 16 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	37 (訓練①)
タイトル	リニューアル防災訓練! vol.2 パターン分けでマンネリ化を打破&生徒を真面目に参加させるコツ (全校防災・避難訓練における工夫)
実践担当者のお名前	安達・浅見 (生徒教育部防災係)
実践にかかった金額	1000 円未満 (プリント印刷・訓練用 CD)
実践の準備にかかった時間	1 日
実践活動を実施した日時	2019 年 6 月 18 日 14 時 30 分～16 時 30 分
実践の所要時間	2 時間
実践の運営側で動いた人の人数	15 人:教員(6)・生徒(6)・消防署員(3)
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・教職員
防災教育の対象者の人数	約 500 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 各授業場所・調理室前・体育館・スクールバス (校庭に待機)
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	消防署署員, 緊急地震速報 (訓練用), 病人・けが人カード, 校舎見回りカード, ダンボール (炎作り), マジック, スクールバス, スクールバス訓練用 CD, 消火器 (消防署からの貸し出し)

達成目標	【目的・目標】 昨年リニューアルした訓練の第 2 弾。どう行動すべきか, なぜ避難するのかを生徒も教職員も「考える訓練」にすることが目標。従来の訓練は, 「合図があったら机の下にもぐってから避難」のパターン通り動くだけで, 「考える」のが少ないのが課題であった。「考える作業の無いパターン化」が, 実際に地震が発生した際, 揺れている最中に机を探してウロウロする, 慌てて飛び出すといった行動に繋がるのではないかと考えた。また学校の防災訓練の在り方が, 避難の必要性の有無を考えずに「地震が起きたら避難所へ行く」という刷り込みにも繋がると考えた。
------	--



	【背景・経緯】 ・従来の「地震の発生→放送で生徒は机の下にもぐる→放送で避難指示→校庭へ」というよくあるパターンの訓練の有効性に疑問を感じたことから、昨年度より避難訓練ではなく、「防災訓練」という名称に変更して、内容も刷新した。従来の訓練では受け身の参加姿勢が目立ち、また単に指示されたとおり避難するだけなので「災害が起きたら避難所へ行けばよい」という安易な刷り込みにも繋がっていると考えた。 ・教員向けの防災研修会等で、「生徒が防災訓練に真面目に参加しない」という悩みを聞くことがしばしばある。多くの現場が抱えるこの悩みのヒントになる取り組みを目指した。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	（１）事前準備 ①消防との打ち合わせ ：昨年は、直接消防署を訪れて打ち合わせを行ったが、今年度は時間が無く、電話のみでになった。 ②全校朝礼で心構えを話す（6/17） ▽生徒を真面目に参加させる話のポイント・工夫 ①開口一番、「いよいよこの日がやって来ました！」と明るく宣言。真剣に取り組まない場合は、容赦なくやり直すことも笑顔で告げる。⇒「特別な日が来た」（少なくとも先生はとても張り切っている）という意識と「やり直しは本気だ」という危機感を持たせる。 ②本来は、いつどこにいたときに災害に遭うか分からないので、その場で取るべき行動を一人一人が自分で「考える」ように話す。 ⇒教員と生徒間で、「先生は皆さんを助けま…」「せん！」のやり取りを行う。（＝本校で生徒の自助意識を高めるために、敢えて行っている生徒―教員間のお馴染みのやり取り） ③今年度から、防災に対してポジティブ・希望を持たせるため、逆転の視点から、「災害で亡くなる人よりも助かる人の方が多い」「備えれば、助かる確率が高まる・被害が減らせる」ということを強調するようにした。	



(2) 訓練当日 (6/17)

- ・調理室前に段ボール炎を設置する（防災係以外には場所を伏せる）
- ・「けが人」「病人」と症状を書いた用紙を担当の生徒に渡しておく

①消防職員による講話・おんぶ紐の使い方確認 (14:30～14:45)

②地震発生時の訓練及び避難訓練 (14:55～15:50・・・②～⑧)

パターン1：軽度な地震が発生

緊急地震速報の 30 秒後に地震が来る設定→(30 秒の間に飛んできそうな物があれば、無理のない範囲で床に降ろす)→各自で身を守る姿勢を取る(放送は無し)→授業再開の放送

パターン2：強い揺れが発生 ▽揺れの音も入った CD を作成

- (1)緊急地震速報が鳴る→各自で身を守る姿勢を取る(放送は無し)
- (2)教員による見回りと報告(職員室にいる教員で「役割カード」を基に役割分担し、見落としがないようにする)
- (3)各教室では「けが人」「病人」などが発生→担当の生徒・教員は「けが人」「病人」の演技をする。周囲の生徒が教員に報告する。

!!!一旦、地震発生時の訓練終了の放送を入れて切り替え!!!

 放送：これで地震発生時の訓練を終了します。

続いて、火災や不審者侵入による避難訓練に移ります。

晴天でも雨天でも「体育館に避難」とする。「どこにいても、一人一人が考えて、真剣に避難できるようにする訓練」と位置付けて、割り切った。また、校庭が地割れ等で避難できないケースも考えられる。生徒には「あくまでも『避難する』訓練。体育館は天井が落ちるかもしれないし、入り口も少ないので、実際は避難先としてふさわしくない可能性がある」ということも強く伝える。

パターン3：火災が発生 (今回は、化学室)

- ・教職員は、消火器を持ち、火災現場へ行き、消火活動を行う。
- ・火災発生と避難指示の放送を入れる。
- ・防災係の生徒が、避難する生徒の取り組みの様子をチェックする。

③避難状況報告(防災係生徒・教員)→チェックポイントに立った防災係の生徒から、避難の様子を報告を受け、全校にフィードバックする。

④振り返り・講評(防災係教員・消防署職員)



	⑤消火器訓練／⑥スクールバス訓練（個別訓練） スクールバスに乗車しているときに災害が起きた場合の行動を確認した。（名簿チェック、バス備蓄品の確認、非常口の開け方の説明等） ⑦体育館での地震発生時の行動確認→退場 退場時に、天井の一部や、落下物に見立てた段ボールを設置し、お互いに「気を付けて！」といった声がけをしながら戻るようにした。 ⑧事後振り返り（クラウドサービスのアンケート機能を利用）
得られた成果	・防災科学技術研究所の「防災意識尺度」と、訓練に関するアンケートを実施。生徒から厳しい意見や真面目に取り組めなかった反省等が見られるが、それもまた生徒が主体性を持って参加している結果だと捉えている。今年度は生徒アンケートへのフィードバックも行った。 ・反省点としては、消防署員からの講評について、「教育」的な効果を狙って講評をお願いしたが、事前の打ち合わせが不十分であったこともあり、教員に対してのマイナスの講評が長く続くという事態が発生した。外部との防災教育の連携においては、相手に防災「教育」の方針を説明し、理解を得ておくことが重要と改めて学んだ。また、抜き打ちの訓練はまだ実施できていないが、生徒からの要望もあるので、今後検討していきたい。 防災訓練の生徒感想・意見と防災減災について考えていること ・去年より、真剣に取り組む事ができた。災害が起きたら、やはりみんな協力しなければならないと改めて思った。防災訓練は真面目に取り組まないといけないし、いつ災害が起きてもおかしくないので、日頃から冷静な判断ができるようになりたい。 ・学校での防災減災が進んでも、それは学校にいる間しか適用されないもので、家の防災減災にも取り組むきっかけにしたい。 ・朝の先生のお話で、災害は必ず死ぬ人より生きてる人の数の方が多いと聞きました。しっかり自分の身は自分で守っていつ災害が起こってもいいようにしたいです。 ・この学校にいる間に大きな地震が起こらなかったとしても、私が生きている間には地震は必ず起こるので、この6年間防災訓練で学んだこ



	とを忘れずにこれからも生活していこうと思った。 ・東京で災害が起こった時に被災地ボランティア等を通して学んだことを生かして率先して動けるような人になりたいです。今回の防災訓練を通して、生徒だけでなく先生も一丸となってさらに防災教育に励むべきだなと感じました。 ▼学年問わず、鋭い指摘や要望をする感想も多く見られた。 ・消防士の方が注意して下さったことは、生徒はもちろん先生方もメモを取るようにした方がいいと思います。訓練だから、決まった行動をすればいいと思ってしまうと思いますが、生徒も先生も実際に地震や火事が起きていると想像し、自分で考えて行動出来るようにしていけたらいいと思います。 ・訓練で、意識の差が大きな違いを生むことが感じられました。学校にいる人全員が当事者意識を持たないと、これからもっと目黒星美を防災に強い学校にすることは出来ないのではないかと思います。 ・私たち高校3年生が卒業するまでに、予告なしの訓練をやってほしい。今日は予告ありの訓練だったため、地震がくる時間も、どのように行動するかなどもあらかじめ考えておくことができた。でも、いつか本当に地震や災害が起きた時、今日みたいに動けるかはわからない、むしろ、いくら訓練を真面目に受けていたとしても、本番、訓練通りに動ける可能性は少ないと思う。できれば、1学期に一回くらいのペースで訓練や講習のようなものをしてほしい。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	・来年度は、日程をずらして、もう少し時間に余裕を持って取り組めることになったので、過去2回の訓練を活かして、実施したい。全校炊き出し訓練も行いたい。 ・訓練では厳しい講評も受けたが、日常の中での改善や夏の教員研修での再度の訓練などを行い、その結果を生徒にもフィードバックした。 ・昨年、音響設備がうまく使えなかった反省を活かして、今年度は予め、音量を調節し、効果音（揺れの音）も入れたCDを作成した。	



記入日	2019 年 11 月 5 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	38 (訓練②)
タイトル	知らないは無力！大切な人を，家族を，命を守るための技術と心を磨こう！（生徒対象救命講習）
実践担当者のお名前	安達（養護教諭）
実践にかかった金額	1000 円未満
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019 年 9 月 3 日 12 時 30 分～15 時 30 分
実践の所要時間	3 時間
実践の運営側で動いた人の人数	2 人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	38 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校多目的室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	・指導員（消防署に派遣を依頼） ・テキストブック&マウスピース（参加者が購入） ・レサシアン人形 ・ AED

達成目標	①心肺蘇生，人工呼吸，AED の使用方法，応急処置について理解し，技術を身につけることができる。 ②傷病者対応は，救急隊や医師が行うだけでなく，第一段階としてバイスタンダーが行う応急手当が重要だということを理解する。 ③自分と他者を大切にする，守る術を身につける。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに



実践内容・方法	実践内容：成城消防署員 1 名，東京防災救急協会 3 名，1 名の指導の下，普通救命講習テキスト（ガイドライン 2015 対応）に基づき，レサシアン人形・AED を使用した心肺蘇生，人工呼吸の演習実施。 実践方法： ① 4 月上旬：成城消防署に普通救命講習を依頼。電話で実施希望日と実施可能かどうかを確認後，「救命講習依頼書」を FAX にて消防署へ送付。（日時を押さえる） ↓ ② 6 月下旬～7 月上旬：中 1～高 3 の参加希望者を募り，人数が確定したところで消防署へ報告。 ↓ ③ 8 月下旬：参加者名簿（性別・名簿・生年月日・学校住所）を公益財団法人東京防災救急協会救急事業部救急指導科へメールで送信。 →当日，受講申請書の記入を省くことができ，救命技能認定証を生徒に配付できる。 ↓ ④ 当日： ・実施約 1～2 時間前に用務員に人形や AED などの必要物品を消防署へ車で取りに行ってもらう。 ・約 1 時間前に消防署員・東京防災救急協会・消防団の方が到着するため，会場に案内をする。 ・終了後は，生徒たちも一緒に片付け。 ・感想をクラウドサービスのアンケート機能を通じて提出させた。 ⇒結果は，「得られた成果」
---------	---



得られた成果	・生徒が防災意識を高めながら、実践的スキルを身に着けることができた。 問 1. 今回、救命講習に参加しようと思った理由を書いてください。 ・保健の授業で習った心肺蘇生のやり方や AED の使い方を詳しく知りたかったから。 ・いざというときに勇気ある行動を取ることができるように学んでおきたかったからです。 ・私が救命講習に参加し、AED などを使って人を助けた場合 1 人の命が救えるということを思ったので参加しました。そして、このような機会がこれから無いかもしれないと思い、今回がチャンスだと思ったからです。 問 2. 今回の救命講習で学んだこと、今後に生かしたいこと等を自由に書いてください。また、講習中には聞けなかった疑問点などもあれば書いてください。 ・心肺蘇生で手を組んだ時に指先をつけないように押すということを初めて知りました。また、心肺蘇生は心臓の代わりだと聞いて、参考になりました。 ・AED を使うとき、周りに助けを求めるために大声を出すのを学びました。また、人が倒れていても助けに動かない人がいるので自分自身で指示をするのが大切であると思いました。 ・自分が救急手当をして万が一の場合があっても罪にとわれない。 ・今まではやはり AED を使ったり、緊急の手当てをしたりすることに対して自分でできるのだろうか、という気持ちがありましたが、今回実際に AED を使ってみると音声でどうしたら良いかを教えてくれたりしたので自分 1 人で全てをやろうとせず周りの人と協力しながら手当てをすることも大切だと学びました。 ・いざとなった時に、「AED を持ってきてください」と言われても、初めて来た場所だったり、よく知らない場所だとどこにあるかわからないと思います。「日本全国 AED マップ」の情報を、多くの人が利用する Google マップなどに重ねればより多くの人 AED の設置場所が分かって良いと思いました。
--------	---



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫 課題	例年，生徒から出る質問などを予め消防署の方たちに伝えておくと，講習の中に入れてくれる為，より有意義な時間になると感じた。	